

本年度も秋の研究発表会シーズンには会員各校の研究発表が多く開かれました。その中から、4校の取り組みを紹介いたします。

主体的に問題解決に取り組む子どもの育成を目指す算数科学習指導

～少人数・複式学級における学習過程の工夫と個に応じた支援を中心に～

福岡県新宮町立相島小学校

平成 2 4 年 1 0 月 2 6 日（金）に、上記の研究テーマを掲げ、糟屋地区市町教育委員会連絡協議会研究指定・委嘱の第 3 年次として、研究発表会を開催しました。

相島（あいのしま）小学校は、1 年生は 0 名、2 年生は単学級で 4 名、3・4 年生は複式学級でそれぞれ 3 名と 1 名、5・6 年生は複式学級でそれぞれ 3 名と 1 名の全校児童 1 2 名のへき地（離島）校です。約 9 0 名の参加者を得て、公開授業・研究構想の説明・全体講評等の内容・日程でおこないました。

複式学級では、「わたり授業」という直接指導と間接指導のバランスを取りながら、ある学年から他の学年へ担任が教室を移動する授業形態を取っています。本校では、基本的な学習過程をずらすことにより、間接指導の時間を生み出し、主体的に取り組む学習場面を設けています。

また、個に応じた支援では、教材教具の工夫や子どもたちの関心・意欲・態度を育てる環境づくり、朝の活動における計算の習熟などに取り組んできました。

白水明校長をはじめ、教頭・4 名の教諭・養護教諭・事務主査・2 名の調理員・用務員のオールスタッフ 1 1 名で、算数科学習指導を中核にしながら 1 2 名の子どもたちと日々向かい合っています。

なお、詳しくは福岡県新宮町のホームページから相島小学校のホームページに入っていただくと、本校教育の様子を日々更新していますので、関心がありましたらご覧下さい。

（九州・池田）



仙台市立広瀬小学校 自主公開

今年度の研究は、昨年度の課題からスタートし、総合的な学習の時間の単元の立ち上げについて特に力を入れてきた。奈須正裕先生にも数回来校していただき、単元づくりのポイントや研究の方向性についてご指導をいただいた。

総合的な学習では、今まで取り組んだことのない「広瀬ラーメン」「公園探検」「広瀬龍神伝説」などの新しい単元が生まれた。昨年との違いは、先生方も総合が楽しくてたまらないという声が聞かれるようになったことである。先生方が、子どもたちと共に授業をつくりあげていくようになった。

生活科は、価値ある学習材を用いた単元を立ち上げた。「わくわくむかしあそび」では、地域の方を昔遊びの達人としてお招きし、昔遊びを実際に体験してその楽しさを知り、自分たちでつくった昔遊びで園児と一緒に遊ぶという単元をつくった。

公開当日は、「園児と楽しく遊ぶために、自分が作った昔遊びを変身させよう」というねらいで授業を組み立てた。

【生活科授業風景】



【総合的な学習の時間の授業風景】



来年度はいよいよ本公開になる。生活科では個別対応表を作成し、一人一人の学びを見取るようにしてきたが、今後も大事にしていきたい。総合的な学習では、単元づくりはもちろんのこと、授業の組み立て方にもじっくり取り組んでいきたい。

(東北・鈴木)

緒川小学校現職教育研究会

参観した1年生の算数の授業は、集団の学び合い活動の提案授業であった。魚型の影絵が、三角形の色板何枚でできているかを予想し、確かめる活動を行っていた。まず予想を立て、そのあと実際に色板を影絵の上に並べて予想を検証していく。予想にも確かめにも、個と小集団の活動を交互に組み合わせていたのが印象的だった。小集団での活動の後にも、もう一度、個の時間がある。個の学びがあってこそ、集団の学び合いなのである。

集団での学び合いの時間では、全校で取り入れているというホワイトボードがうまく機能していた。自分が考えた色板の並び方を、ホワイトボードに貼られたワークシート上に書き込んだり、色板を並べてみたり、友達の考えを聞いて「わたしはここをこうしたよ」と並び替えてみたりと、生き生きと話し

合いをしている。自分の考えを伝える言葉が見つからずに戸惑ったり、相手の考えの意味をイメージできずに「表向きの聞き役」になったりする児童は見られない。「ここにはこんな風に小さい三角があるでしょ」「小さい三角で考えると3こだね」「大きい四角もここにあるよ」と互いの考えを共有し合い、また新たな気づきを生み出すやりとりの様子は、1年生であることを忘れてしまうほどだ。残念ながら時間が超過し、習熟問題に取り組む時間は無かったが、ワークシートが難易度別のコースごとに複数準備されていた。

近年、緒川小が力を入れている学び合いは、個の学びが培われているからこそ次のステップなのだというのを、このワークシートからも感じさせられる。集中して学び合う児童の姿は、個の学びを大事にする緒川小の教育が基盤となつてつくられていた。

(東北・渡邊)

板橋区立大谷口小学校公開研究会を終えて

去る11月22日(木)、板橋区教育委員会の研究指定を受けた同区立大谷口小学校において、全学年で教科における自立学習(この学会では「一人学び」と呼ぶ方が通りはいいが)を中心とする研究授業発表会が開催された。当日は、講師として本学会会長加藤幸次氏、同編集副委員長成田幸夫氏、同編集委員佐野亮子氏の3氏を迎え、さらに本学会の会員の方々を含む約200名の一般参加者を得て、成功裡に終えることができた。2011年から外部講師として携わってきた筆者も、こうした実践研究が一定の成果を収めたことを素直に喜ぶたい。

1年前の会報に、「板橋個性化教育ルネサンスへ：板橋区立大谷口小及び板橋第一小での取組について」という紹介文を書いた時には、「ルネサンス」とは、我ながら大きく出過ぎだと思っていたし、少なからぬ会員の方も、同じように感じられたかもしれない。生半可な意気込みでは中途半端な研究で終わる可能性が高いだけに、こうして敢えて大上段に構えたのだが、大谷口小学校の先生方が織りなしたチームワークの広がりや分厚さにより、幾多の壁を乗り越え、先生方自身が、やってよかったという充実感を持って一つの節目を迎えられたことは間違いない。

しかしながら、検討会や講演会における一般参加者の空気を読む限り、この実践研究がたやすく波及効果を呼ぶというところまでに至っていないことは明白である。印象的だったのは、高学



年部会の分科会（授業後検討会）で非常に質の高い質問をされた先生が、オランダでの滞在経験があり、そこではこうした個性化教育的実践は珍しくないのに、日本で実践して行くのは非常に困難な雰囲気があるという趣旨の発言をされていたことだ。その意味で、これがオープン建築学校発祥の地としての板橋区における一つの「再生」であるとしても、これを本当の意味で根付かせて行くためには、さらなる工夫と努力が求められよう。

来年度（2013 年度）は、昨年度から大谷口小学校と合同研究という形で取組を重ねてきた板橋第一小学校で、11 月 22 日（金）午後に公開授業研究会が開催される予定である。引き続き研究を重ねて行くことになるが、現場の先生方と協働して、本学会の会員の方々の期待を裏切らない授業実践を目指したい。引き続き、会員の皆様のご指導・ご批正を乞う次第である。

（東京・澤田）

【全国大会のお知らせ】

次回の大会の日時と場所が確定しました。会員のみなさまには、今からご予約いただきますよう、よろしくお願ひいたします。なお、自由研究発表については、今回同封いたしました別紙ご参照の上、よろしくお申し込み下さい。

開催日 平成 25 年 8 月 3 日（土）～ 4 日（日）

※ 8 月 2 日（金）～ 4 日（日）に、同会場にて教員免許更新講習を実施予定

会 場 中日美容専門学校（名古屋駅より徒歩 10 分）

〒 450-0003 名古屋市中村区名駅南 4 丁目 11 番地 23 号

《お詫び》

事務局のミスにより、会報の号数に誤りが生じていました。「14 号」を 2 回連続して用いてしまい、その後、本来ならば「16 号」となるべき前回の会報を「15 号」として発行しておりました。お詫びすると共に、今号を「17 号」とすることで、通算での号数を本来のものへと訂正させていただきます。

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

庶務部長 佐久間 茂和

〒 338-0013

埼玉県さいたま市中央区鈴谷 3-9-14-510

TEL 048(678)1681

e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp

日本個性化教育学会ホームページ

<http://koseika.com/>

日本個性化教育学会 第 17 号

平成 25 年 1 月 19 日発行

編集責任者 事務局長 奈須 正裕

編集 広報部 中田 泰志